

# 臨床研究部便り 11号

臨床研究部長 下田 照文

臨床研究部には免疫生化研究室、生理研究室、動物研究室があります。免疫生化研究室と生理研究室では、高張食塩水吸入誘発喀痰検査と細胞分析、ELISA 法によるサイトカイン測定、培養細胞を用いた遊走研究を行っています。動物研究室ではマウスを抗原で感作して喘息モデルを作成し喘息の病態に関する研究を行っていますが、実際研究を行っている山内さんにその途中経過を報告してもらいます。

## 動物室の紹介

ご存じない方も多いと思いますが、動物室は、臨床研究部前の廊下の奥、一旦外に出たところにあります。動物室はしばらく開店休業状態だったのですが、岐阜薬科大や九大で技術を学び、昨年3月にマウスを用いた動物実験を始めました(図1, 2)。



図1

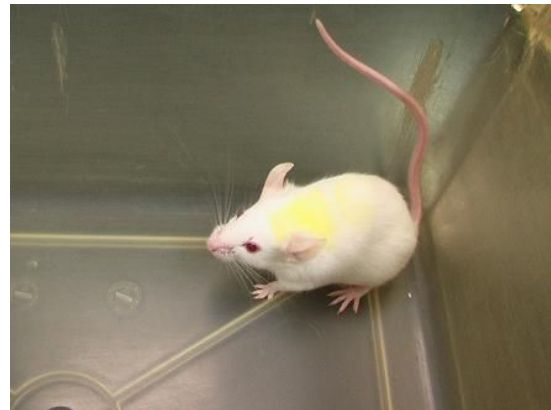


図2

実験の成果がようやく少しずつ見えてきましたので、その一部を報告させていただきます。私たちが目指しているのは、喘息の重症化・難治化の原因である気道リモデリングが進んだ喘息モデルマウスの作成です。

図3, 4は実験開始50日目の肺組織切片で、それぞれ卵白アルブミン(OA)あるいは生理食塩水(Sal)を吸入させたものです。

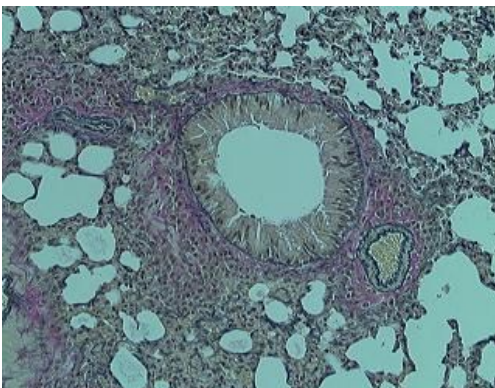


図3

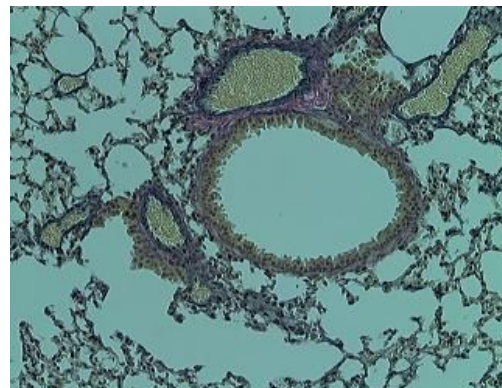


図4

OA 吸入肺では Sal 吸入肺に比べ、炎症細胞の浸潤や上皮杯細胞の増生が顕著に見られます。こういった組織学的変化と合わせて機能分子の解析を行うことにより、気道リモデリングの機序を解明し、新しい治療法の開発につながることを期待されます。

小さくても尊い命。感謝の心を忘れずに、手を合わせつつ実験に勤しむ毎日です。一人での実験は視野が狭くなりがちですが、内外を問わず幅広く知識や技術を取り入れていきたいと考えております。今後も向上心を忘れずに頑張っていきたいと思います。

【臨床研究部：山内絵理】